



～未来につなぐ～
2025
Ochanomizu University

お茶の水女子大学創立 150 周年記念募金に関するお願い

お茶の水女子大学は日本初の近代的学校制度を定めた学制発布の 3 年後にあたる明治 8 年（1875 年）に、女性教員の養成も急務であるとした明治政府によって官立の東京女子師範学校として創立されました。その後、東京師範学校女子部、高等師範学校女子部、女子高等師範学校、東京女子高等師範学校と、制度や名称の変更を経つつ、関東大震災や戦火をも乗り越え、我が国における女子の最高学府としての歩みを続けてまいりました。そして、昭和 24 年（1949 年）に新制大学お茶の水女子大学となりました。お茶の水女子大学は新制国立大学となってからも創立の精神に基づき、女子教育をとおして常に時代や社会の要請に応じてきました。平成 16 年（2004 年）には国立大学法人お茶の水女子大学となり「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって真摯な夢の実現の場として存在する」ことをミッションに掲げ、女子教育の視野をユニバーサルに広げるべく、今も新たな歴史を刻み続け、令和 7 年（2025 年）に創立 150 周年を迎えます。

21 世紀も四半世紀が過ぎようとする今、日本はサイバー空間とフィジカル空間が高度に融合し、経済発展と社会課題の解決を両立し、人々が平和で豊かに暮らせる社会、society 5.0 に向けて歩みを早めています。その実現のために、例えば政府の教育未来創造会議では、日本の未来をけん引する高等教育の在り方として「自分自身で課題を設定して、考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていく人材」の育成を挙げています。世界と比べて後れを取る理系分野を専門とするデジタル人材・グリーン人材の育成が急務であるとされ、なかでも大きく不足する女性人材を増やす必要があります。加えて、世界が抱える様々な課題を解決し、SDGs の目指す持続可能で平和な世界の実現のためには、多様な知、とりわけ女性の参画が強く求められています。

そのため学部教育においては、令和 3 年度より「全学データサイエンス学際カリキュラム」を新設し、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育の全国展開の推進」の特定分野校の認定を受け、人文科学・教育学の分野で数理・データサイエンス・AI 教育をけん引する大学としての自負と責任を持って人材育成を推進しています。さらに、令和 6 年度には「共創工学部（仮称）」の新設を予定し、全学をあげて準備を進めています。同学部には「人間環境工学科（仮称）」と「文化情報工学科（仮称）」の 2 学科を設置し、工学と人文・社会科学系の学問を融合し、工学の知識や技術と文系の知を協働させ、人間中心の社会に向けたイノベーションを推進できる女性人材の育成を目指します。

本学のこのような取組みは、令和4年3月に文部科学省の大学改革推進等補助金「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」に採択され、工学系人材の育成環境の整備が加速されています。また、令和3年3月には文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」のボトムアップ型に採択され、博士後期課程学生の将来のイノベーション創出と修了後のキャリアパス確保に向けた取組みを推進しています。さらには、文部科学省「次世代アントレプレナー育成事業」の下で、他大学とコンソーシアムを結成し、女性起業家の育成に向けて取り組む等、先進的な事業を推進しています。

また、内閣府「国立大学イノベーション創出環境強化事業」の支援を受け、イノベーションを創発する経営体としての大学への変革を目指してイノベーションエコシステムの環境を整備するとともに、新たな研究分野であるジェンダード・イノベーション研究による産官学連携に着手しています。

さらに、本学の教育研究支援の充実を図るため、大学のグローバル化推進を目的として学生・教員の海外留学・研究のための支援の充実や優れた留学生の受入れを推進する一方、令和4年4月には学生の安全安心な学びの場を確保するために大学キャンパス内に課外活動施設を併設した新学生宿舎（お茶の水女子大学音羽館）を開寮いたしました。

以上のように、本学では不断に改革・変革を推進しつつ、学生一人ひとりの成長を支援し、社会から大きな期待を寄せられる女性人材の育成、グローバルな視点をもって平和で持続可能な未来を創るためのリーダーシップを発揮できる女性の育成等々に貢献してまいりました。これらの成果を生むことができたのは、ひとえに多くの皆様のご支援のおかげであり、深甚なる感謝を禁じ得ません。

このたび、お茶の水女子大学は、令和7年（2025年）に創立150周年を迎えるにあたり、これまでの発展の軌跡を踏まえ、これからも社会の要請と期待に十全に応えることのできる大学であり続けることを期して、以下の4つの記念事業を計画いたしました。

- (1) 創立150周年記念プロジェクト事業
- (2) ESGキャンパス整備（同窓会館跡地整備）事業
- (3) 創立150周年記念学修支援奨学基金事業
- (4) 創立150年史編纂事業

(1)の創立150周年記念プロジェクト事業としては、令和7年（2025年）11月29日の本学創立記念日に、学生・教職員・卒業生ほか、常日頃からご支援をいただいている皆様とともにお茶の水女子大学の新たな旅立ちを記念する創立150周年記念式典を挙ります。また、式典に前後して、広く社会に向けて啓発する関連イベントや、先端的教育・研究を議題とした講演会ないしグローバル・シンポジウムなどを開催する予定です。

(2) の ESG キャンパス整備事業として、本学の女子教育の伝統を基盤にして、ESG (環境・社会・ガバナンス) に配慮したシステム構築を目指し、高等教育・研究に係る社会課題を解決し、新たな価値を創造することのできるダイナミックケイパビリティを持った優れた女性人材の育成を促進するための基盤として、大学に隣接する同窓会館跡地に複合施設を建設予定です。この新しい複合施設は昭和 25 年 (1950 年) の 3 学部設置以降、70 年を経て新たに設置予定である共創工学部 (仮称) 及び創立 150 周年を象徴するメモリアルな建物とし、未来の環境、社会、文化を創造する新たな理工系女性人材の育成を強化すると共に、産学連携の促進や大学発ベンチャーの拠点としての機能を担います。さらに、同窓会館の跡地であることから、各附属学校園の同窓生と大学との新たなコモンズの形成に資する空間として活用いたします。また、重要なステークホルダーである地域の人びととの活動に資するオープンな交流の場として提供することにより、イノベーションへの理解を促進し、大学の地域貢献の機能を強化します。このような施設の建設を中心とした ESG キャンパス整備 (同窓会館跡地整備) 事業は PPP/PFI 事業として計画しています。

(3) の創立 150 周年記念学修支援奨学基金事業は、未来を支える人材を育む大学の機能強化と新たな時代に対応する学びの支援の充実を図るための事業です。ウェルビーイングを実現する未来社会を構築するために、高い専門性や技術力を身に着け、課題解決能力を備えた人材の輩出が急務となっています。お茶の水女子大学として、デジタル人材・グリーン人材等のこれからの社会に必要な人材を育成し、不足する博士人材育成をも視野に入れつつ、学生が経済的に安心して学修・研究に集中できる環境を整える必要があります。また変化の激しい時代において、学ぶ意欲のあるすべての女性たちへの支援の充実と環境整備も重要であり、学び直し (リカレント・リスキリング教育) を促進するための体制作りを一層強化し、時代の要請に応えると共に、学び直しが我が国の未来をけん引する新しい女性リーダーの誕生につながることを目指していきます。

(4) の創立 150 年史編纂事業は、令和 8 年 (2026 年) に刊行を予定している『お茶の水女子大学 150 年史』のための事業です。お茶の水女子大学の歴史は、日本の女子教育と女性リーダー育成の歴史でもあります。『お茶の水女子大学 150 年史』は、昭和 59 年 (1984 年) に刊行された『お茶の水女子大学百年史』を補完し、一女子大学が、国立大学の法人化という変革の荒波を乗り越えて歩んできた歴史を次世代に伝え、将来の女子教育に資することを目的としています。

ご賢察いただけるように、これらの記念事業は、皆さまのご支援、お力添えなくしてはとうてい成しうることはありません。今、お茶の水女子大学に課された次の時代へのイノベーションを実現するために、卒業生はもとより、広く・多くの皆さまのお力添えを賜りたいと存じます。何とぞ本趣旨にご賛同いただき、格別のご高配を賜りますよう切にお願い申しあげる次第です。

令和 4 年 11 月

国立大学法人お茶の水女子大学長

佐々木 泰子